日本語讀本 卷一

東亞高等豫備學校

口語第一部

第一課　教科書

ソレハ　日本語讀本デス。コレハ　會話ノ本デス。

「ドレモ　ミナ」　コノ學校ノ教科書デス。

ソレ　コレ　ドレ

デス

モウ

コレカラ

第二課　讀本

私ハ　モウ　假名ヲ　ナラヒマシタ。マタ　短イ會話ヲ　スコシ　ナラヒマシタ。コレカラ　コノ讀本ヲ　ナラヒマス。

第三課　入學

東京の附近
大阪の附近
神戸
大阪
研究して居ます。
那何
永い
長い
短い
モウ　書きました。
やっと　やっぱり　才。
近所
近内は又来ます。

林さんは　私の友人です。林さんは　昨日　入學しました。李さんも　王さんも　私の友人です。李さんは　今日　入學します。王さんは明日入學しません。

ます　ました　ませう
今日　昨日　明日

第四課　日曜日

雨ガ　ハレマシタ。好イ天氣デス。今日ハ　日曜日デスカラ　散歩ニ行キマセウ。サア　一緒ニ　出カケマセウ。

カラ
サア

第五課　汽車

汽車ガ　停車場ヘ　着キマシタ。大勢ノ人ガ　下リマス。大勢ノ人ガ　乘リマス。マタ　汽車ガ　動キ出シマシタ。モウ　アンナニ　小サク　ナリマシタ。

着ク、下リル、乘ル、動キ出ス
アンナニ

ニギヤカ＝賑カ
繁華

大切ナ
大事ナ
緊要ナ
交通機關

およぐ
游ぐ・泳ぐ

澤山
多數・多量

黒い——黒
赤い——赤
白い——白

第六課　ニギヤカナ町

此處ハ　大層　ニギヤカナ町デス。電車モ　自動車モ　アリマス。港ニハ　汽船モ　アリマス。アア　飛行機ガ飛ンデ來マシタ。汽車・汽船・電車・自動車・飛行機ナドハ　皆　大切ナ　交通機關デス。

第七課　鯉

此處は　公園です。池の中に　鯉が　およいでゐます。數へて　ごらんなさい。一匹、二匹、三匹、四匹、五匹、六匹、七匹。七匹ゐます。いや　あそこにも、まだ　澤山ゐます。大きいのも　ゐます。小さいのも　ゐます。黒いのも　ゐます。赤いのも　ゐます。白と

ぶち―斑

咲キ出ス

梅・櫻・菜ノ花

鶯・蝶蝶

赤との　ぶちも　あります。　麩を　投げてやると　喜んで　食べます。　あれごらんなさい。　仲よく　一列になつて　およいで來ます。

第八課　コレカラ

ダンダン　暖カニ　ナツテ來マシタ。　梅ノ花ガ　咲キ出シマシタ。　今朝　鶯ガ　梅ノ木デ　ホウホケキョウト　鳴キマシタ。　櫻ガ　咲クノハ、　コレカラデス。　菜ノ花ガ　咲クノモ、　コレカラデス。　蝶蝶ガ　舞フノモ、　コレカラデス。

第九課　日の入り

御覽なさい。　夕日の色が　大層綺麗です。　もう入り

だんだん
とうとう
夕焼
鳴
スズムシ　鈴虫
マツムシ　松虫
キリギリス　轡虫
ウマオヒムシ　馬追虫
デス　デアリマス　デゴザイマス
音、音
コスル　擦ル
嬉シサウニ

始めました。見て居る中に、だんだん　隠れます。ああ、とうとう　見えなく　なりました。空が　眞赤に　なりました。美しい夕焼です。

第十課　虫ノ聲

草ノ中デ　虫ガ　イイ聲ヲ　出シテ、鳴イテ居マス。アレハ　何トイフ　虫デセウ。リイン　リイン　ト鳴クノハ　鈴虫デ、チンヂロリン　チンヂロリン　ト鳴クノハ　松虫デス。マタ　ガチヤガチヤト　ヤカマシク鳴クノハ　轡虫デ、スイッチョ、スイッチョ、ト　淋シサウニ　鳴クノハ、馬追虫デス。

スベテノ虫ノ　鳴ク音ハ　喉カラ出ルノデナク、羽ヲ　コスッテ、音ヲ　出スノデアリマス。

○虫ノ鳴ク音ハ、何處カラ出マスカ。

第十一課　水仙

霜ノ下リタ　寒イ花畑ノ中ハ、木モ草モ　枯レ萎ンデキマスガ、水仙バカリハ　霜モ氷モ風モ　怖レナイ　デ、青イ葉ヲ　伸シテ、眞白ナ綺麗ナ花ヲ　開イテキマス。ナントマア　勇マシイ　立派ナ花デハアリマセンカ。水仙ガ　世ノ中ノ人達ニ　ヨロコバレルノハ、寒イ時デモ、平氣デ　花ヲ　開クカラデセウ。

○水仙ハイツ頃開キマスカ。

第十二課　爪の掃除

指の爪を　長く　伸して置く時は、黑い垢が　たま

徽菌
知らぬうちに
口の中・鼻の穴
病氣に罹る
掃除
忘れては
なりません
いけません

数へ方

メートル Metre
リットル Litre

ります。この垢の中には、種々の惡い徽菌が交つてゐますから、それが知らぬうちに、口の中や鼻の穴へ入りますと、怖しい病氣に罹ります。それで手を洗ふことと、時々爪の掃除をすることを忘れてはなりません。

第十三課　數へ方

物には、それぞれ種々の數へ方があります。例へば、筆や鉛筆や竹竿などは一本二本と呼び、紙は一枚二枚、本は一冊二冊、墨は一挺二挺、車は一臺二臺、船は一さう二さう、茶碗に盛るものは一ぱい二はいと言ひます。近頃物指で計るものはメートルを用ひ、枡で量るものはリ

ットルを　用ひ、秤にかけるものは、グラムを　用ひることに　なりましたが、舊來の習慣で　物指に　丈・尺・寸・分、枡に　石・斗・升・合、秤に　貫・匁・斤などを　用ひるものも　少なくありません。

グラム Gramme
丈・尺・寸・分
石・斗・升・合
貫・匁・斤

第十四課　親牛ト子牛

私ノ家ニハ、親牛ト　子牛ガ　ヰマス。子牛ハ　コノ間　生レタノデス。モウ　餘程　大キク　ナリマシタ。ケレドモ　マダ　角ハ　生エマセン。何ニデモ　スグ　ビックリシテ、駈ケ出シマス。親牛ハ　子牛ヲ　大層　カハイガリマス。日ニ何遍モ　嘗メテ　ヤリマス。親牛ヲ　外へ　出スト、子牛モ　一緒ニ　ツイテ　イキマス。チョツトハ　離レマスガ、スグ　親牛ノ處

餘程
ビックリスル
カハイガル
何遍モ
チョツトハ
シバラクハ

ヨソ 餘所・他所

ヒ 彼 被 彼

好い工夫 うまい考 あるまいか 年取る

どうでせう なるほど いかにも すると さうすると

へ　來マス。綱ヲ　附ケナクテモ、ヨソヘハ　イキマセン。

第十五課　鼠の智慧

「此の頃　仲間のものが、猫に捕られて困るが、何か好い工夫は　有るまいか。」

と、年取つた鼠が　仲間のものに　言ひました。その時、一匹の子鼠が　前へ出て　言ひました。

「好い工夫があります。大きな鈴を　猫の頸に　付けて置いて、その音が聞えたら、逃げることにして　は　どうでせう。」

「なるほど、好い考だ。」

と言つて、皆感心しました。すると　年取つた鼠が

「それも好いが、誰が　その鈴を　付けに行くか。」と言ひましたので、皆默つてしまひました。

○鈴を猫の頸に付けに行く鼠がありませうか。

第十六課　いろくの果物

夏の末から　秋のはじめ頃に　なりますと、いろいろの　旨さうな果物が　八百屋や　水菓子屋の　店前に　美しく　並べられます。赤いのは　林檎でせう。紫色のは　葡萄でせう。そして　赤黑く　光澤のよい　栗の實も　笊に　盛られて　出てゐます。　今少したつ　ば、柿も　出ませう。つづいて　青くて酸つぱい蜜柑も　亦　皆さんの前に　その顔を　見せませう。

元來　果物は　お菓子などと異ひ、それぞれ　おい

八百屋　水菓子屋
笊に盛る
酸つぱい

爲になる

不熟

しい味が　ありますから、誰も　好みます。殊に　食物の消化を　よくするので、梨や　林檎や　葡萄などを、食事の後で、少し食べるのは、體の爲に　なります。

けれども　本當に　熟してゐないものは　味が悪いばかりでなく、非常に　消化が　悪くありますし、中には毒になるものさへ　ありますから、不熟の果物は食べないやうに　注意しなければなりません。

○果物の名を、知つてゐるだけ擧げてごらんなさい。
○食後に果物を食べると、なぜ體の爲になりますか。
○不熟の果物を食べるのは、なぜいけませんか。

第十七課　雨

カウ＝此ノ樣ニ
サウ＝其ノ樣ニ
アア＝アノ樣ニ
ドウ＝ドノ樣ニ

水の嵩
嵩＝數量・容積
雨水
避ケル＝ヨケル

此ノ頃ハ　雨ガ降リ續イテ、表デ遊ブ日ガアリマセン。カウ毎日降ル雨ハ　ドウナツテシマフノデセウ。唐傘ニ降ル雨ガ　四方ヘ流レ落チルヤウニ、水ハ低イ方ヘ低イ方ヘト　流レテ行キマス。庭ヘ降ル雨モ、庭ノ高イ所カラ　低イ方ヘ流レテ行キマス。ハジメハ絲筋ホドノ流デスガ、ソレガダン〳〵集ツテ、溝ニ落チル頃ニハ、流モ早クナリ、水ノ嵩モ多クナリマス。

雨水ノ流レル道ハ　地圖ニカイタ川ヲ見ルヤウデス。本流ガアリマス。支流ガアリマス。低クテ廣イ所ニ溜ルト、池ノヤウニナリ、高イ所ニ行キアタルト、其所ヲ避ケテ流レマス。カウシテ流レル水ハ、溝カラ小川ヘ　小川カラ大河ヘ　流レ〳〵テ海ヘ行キマス。

雨水ハ　唯カウシテ流レルバカリデハアリマセン。

浸ミ込ム
浸潤・滲下

地ノ中ニ浸ミ込ンデ、井戸水ヤ泉ノモトニナルノモアリ、目ニ見エナイ水蒸氣ニナツテ、空ヘカヘルノモアリマス。

第十八課　虎ト狐

虎ガ　狐ニ　逢ツテ
「オナカガ　スイタカラ、オ前ヲ　食ベルゾ。」
ト言ヒマシタ。

オナカ＝腹

狐ハ　平氣ナ顏デ
「ソンナコトガ、出來ルモノデスカ。私ハ　獸ノ頭デ、ミンナガ　私ヲ　怖ガツテヰマス。嘘ト　思フナラ、一緒ニ　オイデナサイ。」
ト言ヒマシタ。

平氣ナ顏
怖ガル・嘘

ナルホド　ホンタウニ　實ニ　イカニモ

虎ガ　狐ニツイテ行クト、途中デ　逢ツタ獸ハ、皆逃ゲテ　行キマス。虎ハ　自分ヲ　怖ガルノダトハ知ラナイノデ、「ナルホド　狐ハ　偉イナ。」ト思ツテ、狐ヲ　食ベルノヲ　止メマシタ。

メバエ＝芽生
ウヅメル＝埋
カタイ　堅イ・硬イ
クライ　暗イ
アカルイ　明ルイ
日ニテラサレタリ・・・風ニアタツタリ

○コノ狐ノヤウナ人間ヲ諷シタ諺ヲ知ツテ居マスカ。

第十九課　メバエ

私ハ　モモノ木ノメバエデス。私ガ　土ノ中ヘ　ウヅメラレタノハ、去年ノ夏ゴロデシタ。今年ノ春ニナツテ、ソロ〳〵　カタイキモノヲヌイデ、土ノ外ヘ　アタマヲ　出シマシタ。

暗イ所カラ　明ルイ所ヘ出テ、日ニテラサレタリ、風ニアタツタリスルノハ、サツパリトシテ　ヨイ心モ

クキ＝莖
ノビル＝伸
ソレカラソレカラ＝順次
花ガサイタリ
實ガナツタリ
檜・栗

チデス。今ハ短イクキニ細イ葉ガ三四枚ツイテヰルバカリデスガ、コノクキガノビルト、葉モタクサンニナリ、枝モダン〳〵出テ來マス。今ハ根モ小サイガ、コレモ・オヒオヒ大キクナツテ、ソレカラソレヘト細イ根ヲヒロゲマス。サウシテ大キナモノ木ニナツテ、美シイ花ガサイタリ、ウマイ實ガナツタリスルノデス。

皆サンガ花ヲ見タイ、實ヲ食ベタイト オ思ヒナサルナラ、私ヲダイジニシテ下サイ。

第二十課　材木

材木ニハ、松　杉　檜　檪　栗ナドガ アリマス。最モ多ク用ヒルモノハ松ト杉デ、上品ナノハ檜、堅

箱・桶・樽（ハコ・オケ・タル）
土臺・枕木（ドダイ・マクラギ）
桐（キリ）
机・本箱・箪笥・下駄（ツクエ・ホンバコ・クシス・ゲタ）
杣・木挽（ソマ・コビキ）

イノハ　栗ト欅デス。

松・杉・檜・欅ハ、板　又ハ　柱ニシテ、家ヲ建テ　橋ヲ架ケ、船ヲ作ルナドニ　用ヒマス。杉ハ　電信柱ニ用ヒ、又　箱ヤ桶ヤ樽ナドヲ　作ルノニ　用ヒルコトガ　多イノデス。

栗ハ、堅クテ　長ク腐リマセンカラ、家ノ土臺ヤ又ハ　鐵道ノ枕木ナドニ　シマス。

桐ハ、柔クテ　弱イ木デスカラ、家ヲ建テル材木トシテハ、用ヒラレマセン。ケレドモ、輕クテ　美シイカラ、机ヤ　本箱ヤ　箪笥ヤ　下駄ナドヲ　作ルノニ用ヒマス。

材木ヲ　山カラ　伐リ出スモノハ　杣デス。材木ヲ挽イテ、板ヤ　柱ニスルモノハ　木挽デス。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com